

2018年度（対象年度：2017） 自己点検・評価シート

基準 4	教育課程・学習成果	2/2
------	-----------	-----

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「A」「B」「C」「D」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	自己評価	
	点検項目（評価の視点）	現状	改善
405	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	B	B
	①成績評価及び単位認定を適切に行うための措置 ・単位制度の趣旨に基づく単位認定 ・既修得単位の適切な認定 ・成績評価の適正性・厳格性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・成績評価及び単位認定に係る責任体制及び手続の明示 ②学位授与を適切に行うための措置 ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示 ・学位審査及び修了認定の客観性・厳格性を確保するための措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示 ・適切な学位授与		
406	学位授与の方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	C	
	①各学位課程の分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定		
	②学習成果を把握・評価するための方法の開発 ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取 ③学習成果の測定結果の適切な活用		

2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。
405①学年暦において、授業に関する定められた学習量を確保できるよう授業時間・回数を設定しており、また、休講する場合は必ず補講等の実施ができるよう対応している。[405a] 既修得単位の認定については、学則第38条により、学生が入学前に本学又は他大学で修得した単位を本学で修得したものとして認定することができることを定めている。認定に際しては、学則26条～第28条に定めたとおり、単位制度の趣旨に基づき、適切な単位設定を行っている。[405b] 成績評価については、シラバスにおいて3つの視点（評価種別、評価の割合、評価基準）を明示し、授業担当者はそれに基づく成績評価を行うこととしている。[405c] 卒業に必要な要件や必要単位数については、履修要項や大学HPに掲載し、学生に明示している。[405d,e,f] 405②学位授与（卒業認定）については、「龍谷大学学位規程」や「コース修了に必要なとされる単位数及びコース修了認定方法」に基づき、各学部教授会及び研究科委員会において厳正に行われている。[405g] 406①学習成果を測定するための指標については、文学部において「学位授与の方針」に対応する「文学部アカデミック・リテラシー・ルーブリック」[406h]を作成し、文学部生として求められるスキルを、どの程度達成できているかを確認できるようにしている事例がある。 406②学習成果を把握・評価するための方法については、教養教育の英語科目部会や一部の学部・学科で、学習到達度を評価するために到達度試験[406]を実施している。また、一部の学部では学部教育課程の集大成となる卒業論文および卒業研究の発表などの評価において、ルーブリックを用いた評価[406]を行っている。また、卒業時

に、「学生に保証する基本的な資質」の修得状況についてアンケート調査[406k]を行っている。また、学生による学期末の授業アンケートにおいて、科目ごとの到達目標の達成度をはかる問を設けている。[406l]

406③学習成果の測定結果の適切な活用については、一部の学部では、卒業時の学修到達状況に関して、教育プログラム担当組織で議論を行い、カリキュラム改善を行っている[406m]。また、教養教育センターでは、教養教育自己点検・評価委員会において、各学期の「教養教育科目合格率及び各評価率」を配付し、各科目のS・A・B・C評価と不合格者の分布や、合格率、平均点の一覧をもとに、成績評価の基準の適切性や同一科目間の成績評価の差異を改善する検討を開始している。

上記のように、項目406の学習成果の把握及び評価については、一部の組織において実施されている状況にあり、今後、取り組みを全学的に派生させていく必要がある。

長所・特色《箇条書き》 *先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの	
項目 No.	
項目 No.	
課題事項《箇条書き》 *伸長すべき点、改善すべき点	
406	学習成果の把握及び評価については、一部の組織において実施されている状況にあり、今後、取り組みを全学的に派生させていく必要がある。
項目 No.	

### 3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

対象年度における取り組み *成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
教養教育センターの教養教育自己点検・評価委員会において、各学期の「教養教育科目合格率及び各評価率」を配付し、各科目のS・A・B・C評価と不合格者の分布や、合格率、平均点の一覧をもとに、成績評価の基準の適切性や同一科目間の成績評価の差異を改善する検討を開始した。	

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
406	学習成果の把握及び評価については、一部の組織において実施されている状況にあり、今後、取り組みを全学的に派生させていく必要がある。そのためには、すでに着手している事例を示しながら、自己点検・評価において、未着手の学部等の組織に対し努力課題を課す必要である。

### 4 根拠資料

項目 No.	根拠記号	根拠資料の名称
405①	a	2017年度出講手帳（根拠資料102e参照）
405①	b	龍谷大学学則（抜粋）
405①	c	シラバス作成の手引き
405①	d	2017年度各学部履修要項（根拠資料102b参照）
405①	e	2017年度各研究科履修要項（電子データなし）
405①	f	「履修要項」 <a href="http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/">http://monkey.fks.ryukoku.ac.jp/~kyoga/rishu/</a>
405②	g	龍谷大学学位規程
406①	h	文学部アカデミック・リテラシー・ルーブリック（電子データなし）
406②	i	2017年度共通テスト結果について（報告） 英語 英語I確認テストの実施について（お知らせ）

		理工数学 2017 到達度テスト実施要領 (3月・9月)
406②	j	文学部卒業論文ルーブリック (電子データなし)
406②	k	「学生に保証する基本的な資質」に関する意識調査アンケート用紙
		2017 年度卒業生対象『学生に保証する基本的な資質』に関する意識調査の実施について (提案)
406②	l	2017 年度第2 学期「学生による学期末の授業アンケート」の実施について (提案)
406③	m	カリキュラム懇談会[理工学部数理情報学科]
		2017 年度後期 教育向上改善検討委員会 議事録 [理工学部物質科学科]

## II. 評価結果

総評
<p>冊子「シラバス作成の手引き」において、成績評価に係る3つの視点(評価種別、評価の割合、評価基準)を明示し、授業担当者に、このことに基づくシラバス作成及び成績評価の実施を求めている、成績評価及び単位認定を適切に行うための措置を講じていると評価できる。</p> <p>卒業・修了要件は、履修要項やWEB ページに掲載され、適切に学生に明示できていると評価できる。</p> <p>学位授与(卒業・修了認定)に係る手続は、「学則」、「龍谷大学学位規程」及び「履修要項」等の規程に、各学部教授会又は各研究科委員会の議を経て卒業(修了)を認定することを明示されている。</p> <p>学習成果を把握・評価するための方法として、文学部が「文学部アカデミック・リテラシー・ルーブリック」を作成していることは、学習成果を測定する指標として評価できる。</p> <p>学習成果を把握・評価するための方法の事例がいくつか紹介されているが、まだ一部の学部・研究科等に限定されている。今後、全学部・全研究科等に派生させることが期待される。</p> <p>本自己点検・評価シートには記載がないが、大学院研究科博士後期課程において、在籍関係のない者に対し、学位(課程博士)を授与する制度が存続している。認証評価においても指摘を受けている事項であり、速やかな改善が望まれる。</p>
長所・特色《箇条書き》
<p>冊子「シラバス作成の手引き」において、成績評価に係る3つの視点(評価種別、評価の割合、評価基準)を明示し、授業担当者に、このことに基づくシラバス作成及び成績評価の実施を求めている。</p> <p>一部の学部・研究科等に限定されるが、「文学部アカデミック・リテラシー・ルーブリック」等の学習成果を把握・評価するための方法が開発・実施されている。</p>
課題事項《箇条書き》 *各項目に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
<p>大学院研究科博士後期課程において、在籍関係のない者に対し、学位(課程博士)を授与する制度が存続している。速やかに改善すること。【努力課題】</p> <p>学習成果を把握・評価するための方法の開発・実施が、まだ一部の学部・研究科等に限定されている、今後、全学的に派生させることが期待される。【留意点】</p>